



フ
イ
ク
シ
ヨ
ン
劇
場
第
二
十
六
話

「
怪
文
書
」
（
2
0
枚
シ
ナ
リ
オ
）

大
太
大

【はじめに】

○「フィクション劇場」作者の大太大（お
おた・だい）と申します。つたない作品
にご興味を持って頂き、ありがとうございます。
います。

【フィクション劇場とは】

○作者が世の中で違和感を感じている出来事
や疑問に思っていることなどに対して、
「もし、こういう設定や条件になった
ら、当事者たちはどう動くのか」を考え
たオムニバスドラマです。フィルム・バ
イヤーさんではドラマ部門に第一話と第
二十五話をまとめて公開しており、それ
と同様に著作権フリーかつ、人格権不行
使です。詳細はそちらをご覧ください。マ
スメディアに少々風が向いている「性根
の曲がった社会派ドラマ」で、この第二
十六話は20枚シナリオになります。
では本編をどうぞ。

フィクション劇場 第二十六話「怪文書」

【登場人物】

久保 正夫（くぼ・まさお）（75）：東京都

笹井市 市長

（議会関係）

岡山 義輝（おかやま・よしてる）（45）：

久保の秘書

越川 正行（こしかわ・まさゆき）（55）：

久保の同会派の市議会議員。出直し選挙立
候補者

岡山 義政（おかやま・よしまさ）（23）

：義輝の息子

杉山 元（すぎもと・はじめ）（50）：笹井

市 市議会議員。出直し選挙立候補者。当
選し、新市長となる

（ワイドショー）

宮原（みやはら）（61）：ワイドショー

フィクション劇場 第二十六話「怪文書」

司会者

澤田（さわだ）（28）：ワイドショー ア

シスタント

小田島（おだじま）（66）：ワイドショー

コメンテーター

（マスコミ）

麦林（むぎばやし）（34）：毎朝新聞記者

立石（たていし）（31）：大日本テレビ記

者

大友（おおとも）（45）：日刊アルプス記

者

藤野（ふじの）（44）：共同プレス記者

日野（ひの）（35）：SBS首都圏テレビ

記者

司会者：市長記者会見

ニュースキャスター

記者1（大日本テレビ）

【あらすじ】

東京都笹井市市長の久保正夫は謎の怪文書で学歴詐称を疑われる。そのため、マスコミに卒業証書の白黒コピーを提示するも、真偽を疑われ、疑惑が晴れず辞任する。

出直し選挙は、久保前市長の後継候補の元市議の越川正行と、前市長の疑惑を追及していた同じく元市議の杉本元の戦いとなる。

その少し前、久保の秘書を務めていた岡山義輝は、息子の義政がアルバイトのために電子証明付きの卒業証明書を取得しようとしていることを知り、久保の濡れ衣を晴らすべく、その証明書の取得に動く。

岡山は、取得した証明書を大日本テレビの記者立石に送って確認させ、久保の疑惑を晴らす報道をするよう頼むが、立石は選挙中に特定の候補者に偏る報道は出来ないと断る。そして、ワイドショーは杉本が勝利したことを告げ、誰が投稿したのか分からないSNSの発信に惑わされないようにと話す。

〇市議会（昼）

杉山が質問に立っている。

資料を片手で持って、叩きながら、

杉山「久保市長、私はシンプルにこの文書が正しいのかどうかを聞いているんですよ。何も問題なければ即答できるでしょう？」

久保が発言台に立つ。

久保「杉山議員。この件に関しては、私としても突然のこととございまして、現在各種資料を探しているところでありますので……」

杉山「資料も何もないでしょう？ そんなものは後でいいですよ。あなたが、この国際信州学院大学というところを卒業したかどうかということなんです。自分が卒業したかどうかは覚えているでしょう？」

久保「それにつきましては、きちんと資料を揃えてから答弁を……」

杉山「イエスなのですか？ ノーなのですか？ それだけなんですよ！」

久保「…」

○ワイドショー（昼）

宮原「それでは、次に東京都笹井市の久保市長の学歴詐称疑惑についてお伝えします。

澤田さんお願いします」

澤田「はい。この件は、笹井市の市議会議員数名に、久保市長の経歴の中で『国際信州学院大学卒業』とあるのは誤りだという封書が送られてきたことに端を発しています。久保市長はこれまで卒業はしていて、誤りではないとされていますが、卒業証書など客観的な資料は出されていません」

宮原「澤田さん、それでこの封書を出した人物は分かっているのですか？」

澤田「いえ、今のところ不明です。久保市長としては、名誉毀損で被害届を出すことも検討しているそうです」

コメンテーターの小田島の方を見て、

宮原「小田島さん、この件、どう見ます

フィクション劇場 第二十六話「怪文書」

か？」

小田島「政治家の方のこう言った詐称疑惑と
いうのは、今までも中東の大学を卒業した
とか、国籍がどうか言う話がありました
ね」

宮原「そうですね。今度、参議院選挙に出る
予定の方にもありました」

小田島「まあ、その方はそれ以前の問題とい
う話もありますが、こういう事は卒業証書
などを見せれば済む話ですし、なによりご
自身が知っている訳で、そんなに回答を引
き伸ばす必要があるのかと。ただ、封書を
送った人間が誰かという問題はあるかと思
います」

宮原「そうですね。何もなければ否定すれば
良い訳ですし」

小田島「そう思います。先ほどもありました
ように、久保市長は名誉毀損で被害届を出
すことも検討しているとの事です。そ
うなれば警察も捜査を始めます。その際に

はきちんとした証拠を提示する必要がある
ますので、それを待つことになるかも知れ
ませんね」

宮原「ありがとうございます。追って情報が入り次第、この番組でもお伝えして行きま
す」

○市長室（昼）

久保と秘書の岡山義政が座っている。

久保「岡山くん、参ったな。言いがかりも甚
だしい。この前の選挙で落選した関係者の
嫌がらせなんじゃないか？」

岡山「そうかも知れませんが、市長。しかし
警察沙汰にまでする話なのかというところ
はありますが…」

久保「…とは言え、濡れ衣は晴らさなきゃい
かんだろう」

岡山「…はい」

ドアをノックする音が聞こえる。

岡山「どなたですか？」

越川（声）「越川です」

久保「入ってくれ」

市議会議員の越川正行が入ってくる。

越川「久保さん、大丈夫ですか？」

久保「あまり大丈夫ではないが、卒業証書は家で探しているが、何せ昔のことなんだから。それを見せれば問題ない」

越川「しかし、マスコミは詐称したのも同然のような報道をしています」

久保「証拠がないのに中途半端なことを言っても仕方がない。私が詐称していないと言ったところで『じゃあ、証拠を出せ』ということになる。結局、一緒だ」

越川「でも、その間は『疑惑』と称してやりたい放題ですよ？ それも誰が出したか分からないものを根拠に。黙っているおつもりなのですか？」

久保「そうせざるを得ない」

越川「私は久保さんと同じ会派ですから信じていますが、世の中の風向きは強くなる一

方ですよ」

久保「卒業証書が見つければ収まるよ」

越川「…」

○記者会見場（昼）

司会「それでは久保市長の記者会見を行います。市長どうぞ」

久保「みなさんにお渡ししているのは私が国際信州学院大学を卒業証書のコピーです。これでご納得頂けると存じます」

各記者、配られた卒業証書のコピーを見る。

麦林「市長、原本はないのですか？」

久保「ありますが、こちらで持っているものですので、お出し出来ません」

立石「コピーだけでは分かりませんよ。捏造の疑いだってある。原本を見せて下さい」

大友「そうです。こちらでも真偽の検証をします。各社にお願いします」

久保「そう言われましても、卒業証書ですか

ら、一部しかありませんので…」

藤野「市長、何か隠してるんじゃないやありませんか？」

久保「そんなことはありません。きちんと証拠をお渡ししたつもりです」

○ワイドショー（昼）

宮原「さて、笹井市の久保市長の学歴詐称疑惑ですが、昨日、市長の会見が開かれまして、各メディアに大学の卒業証書のコピーが配布されましたが」

澤田「はい。それが白黒のコピーでして、原本は出せないということでした」

宮原「それはどういう理由で、ですか？」

澤田「大学からは悪用の恐れがあるので、複写は白黒のみ、という条件があったのとこのことです」

宮原「なるほど。ともかく証拠としては提示された訳ですが、真偽のほどはどうなのですか？」

澤田「別の卒業生の方にご協力頂いて、その方の原本と今回のものを、専門家の方に比較して頂いているのですが、市長の方が白黒コピーのため、印鑑の色などが分りにくく、100%本物とは断言出来ないとおっしゃっています」

宮原「では、この疑惑については、市長の出された卒業証書のコピーでは決着していないということですか？」

澤田「はい。そういうことになります」

○市長室（昼）

久保と秘書の岡山が座っている

久保「あれでも、ダメなのか：」

岡山「市長には失礼な言い方かも知れませんが、余計に悪くなっている感じがします」

久保「原本を出さなかった、ということがか？」

岡山「そう思います」

久保「しかし、大学からは出すと言われて

いる。最近は写真を撮って、そこから加工される可能性があるからと止められているんだが……」

岡山「はい。大学側としては、自分たちの存在そのものを脅かしかねないと危惧されているように見えますね……」

久保「そうだな。しかし……、今回の件は向こうが誰かも何も分かってないんだろう？それでこちらが責められるっていうのは納得がいかない。これじゃあ、言ったもん勝ちじゃないか？」

岡山「その通りなのですが、ここまで話が大きくなってしまうと、何をやっても……、という気がします」

二人は、考える。

久保・岡山「……」

越川がドアを開けて飛び込んできた。

越川「久保さん、大変です！」

久保「越川くんか、どうした？」

越川「久保さんの不信任案が提出されるよう
です！」

久保「何だって!? この件でか？」

越川「その通りです。市政を混乱させたとして、この問題追及の急先鋒である杉山議員
が提案しようとしています」

久保「：で、どうなんだ？」

越川「杉山議員の会派はもちろん、こちらから
もかなりの数が賛同しそうです！」

岡山「次の選挙を意識して、ということ
か？」

越川「：残念ですが、そのようです」

3人は考える。

久保・岡山・越川「：」

久保がソファに寄りかかる。

久保「：ここまでか：」

岡山「市長、何を弱気なことを：」

久保「：いや、もう真偽の話ではなくなって
いる。ここまで説明しても無理なら仕方な
い。身を引くしかなさそうだ：」

越川「では、市長。私が選挙に出ます！ 出て、きちんと疑いを晴らします！」

久保「気持ちはありがたいが……。しかし、私が応援に行けば逆効果だから協力出来ない。会派のみんなもそうだろう。それでも出るのか？」

越川「はい！」

岡山「……」

○ニュース（昼）

岡山が自宅でテレビを見ている。

キャスター「久保前市長の辞任に伴う、出直し市長選挙が来週公示されます。立候補予定者は、元市議会議員の杉山 元氏、同じく元市議会議員の越川 正行氏の2名です。今回は前市長の学歴詐称疑惑での市政の立て直しと信頼回復が焦点になるものと思われます」

息子の岡山 義政が後ろから、

岡山義政「親父、昼間っからテレビ見てない

で、就職先探したら？ また、誰かの秘書とか。このままじゃ生活大変になりそうだから、オレもバイト始めようかと思ってるのに」

岡山「黙ってろ。こっちも考えてるよ。パソコンの前に座っているだけが就職活動じゃないぞ」

義政「そういう言い方はないだろ、親父。最近バイトでもどこの高校・大学出身かとか、うるさいんだよ」

岡山「：どこも一緒だな。：で、卒業証書は見つかったのか？」

義政「そんなもんじゃ信じてくれないよ。学校のホームページに行って卒業証明書の発行をお願いしてるんだ。だから、パソコン使ってるんだよ」

岡山はハツとする。

岡山「義政！ それ、詳しく教えてくれないか？」

義政「な、何だよ。急にがつついてきて」

義政「とにかく、教えてくれ！」

岡山と義政は、一緒に義政のパソコン画面を見る。

× × ×

岡山「：これなら、行けそうだ！」

岡山はスマホを手に取り、久保に電話をかける。

岡山「もしもし、久保さんですか？ 岡山です。ご協力して欲しいことがあるのですが：」

○大日本テレビ・政治部フロア（昼）

立石が、休憩室で記者仲間と話をして
いる。

記者1が休憩室に入ってくる。

記者1「おい、立石。お前に電話が入ってるぞ。岡山ってヤツから」

立石「岡山？」

記者1「とにかく出てくれ」

立石は、自席に戻る。

立石「もしもし、お電話代わりました、立石です」

岡山（声）「もしもし、私、久保さんの秘書をしていました岡山ですが」

立石「ああ、その岡山さんね。で、何のご用ですか？」

岡山（声）「立石さんに、私からの封書が届いているかと思いますが、ご確認頂けませんか？」

立石「ちょっと待って下さい」

立石は机にA4サイズの封筒が届いているのを見つける。

封筒の後を見て、岡山からのものと確認する。

立石「岡山さん、確認しましたよ。届いてます。何ですか、これは？」

岡山（声）「久保さんの卒業証明書です」

立石は苦笑い。

立石「また、その話ですか？　いくらおっしゃられても、真偽が分からないと…」

岡山は話を遮る。

岡山「いいえ、今度のものは電子署名付きのものです。『PORTA』というのだそうです。確認方法を添付してありますので、それで確認をお願い出来ませんか？」

立石「今からですか？」

岡山「重要なことなんです！　お願いします」

立石「…分かりましたよ」

立石は添付の資料を見ながら、スマホにアプリをインストールして、写真を撮って確認する。

× × ×

立石「岡山さん、確認しましたよ。一応、確かに正しい証明書のようにですね」

岡山（声）「立石さん、これを報道して頂けませんか？」

立石は考える。

立石「岡山さん、今は無理です」

岡山（声）「立石さん、なぜですか？　今回

の市長選挙の争点の一つでしよう？」

立石「それは理解しています。ただ、選挙期間はダメなんです」

岡山（声）「理解されているのでしたら、なぜ？」

立石「岡山さん、メディアは選挙期間中は特定の候補に肩入れすることは禁じられているんですよ。具体的に言うと、公職選挙法の第168条にその記載があります」

岡山（声）「しかし、これは事実でしよう？
事実を伝えるのに選挙期間中も何もなし
しょう？」

立石「いえ、これは久保さんが推している越川さんに有利な情報になってしまいます。
逆に言えば、杉山さんに不利な情報です。
メディアは選挙中は各候補への公平性に
普段以上に気を使います。残念ですが、出来
ません」

岡山（声）「有利も不利も事実じゃないです
か？　そもそもこの話は、誰か分からない

人間の告発から始まっているですよ？ それを久保さんに問い詰めていたのは、あなた方じゃありませんか？」

立石「岡山さん、それは誤解です。向こうが誰か分からないのですから、取材する側としては、久保さんに聞くしかなかったのですよ」

岡山（声）「じゃあ、何で告発した人を探そうとしないんですか？」

立石「私たちは警察ではありません。そういうことはしません」

岡山、しばし沈黙。

岡山（声）「…では、選挙終了後に報道して頂けませんか？」

立石「情報は上に上げますが、報道するかどうかは、私の一存では決められません」

岡山（声）「では、働きかけて下さい」

立石「とりあえず、言っではみますが…、ただ、確約は出来ませんよ」

岡山（声）「…分かりました。お願いしま

す」

立石は証明書を見ている。

立石「…」

○ワイドショー（昼）

宮原「さて、笹井市の出直し市長選挙です

が、杉山候補の圧勝になりました。小田島さん、どう見ますか？」

小田島「やはり、前の市長の久保さんの学歴詐称疑惑が影響したところが大きかったように思います」

宮原「しかし、結局、この疑惑の真偽が最後まで分からなかった訳ですが」

小田島「そうですね。ただ、最近の選挙でありがちなSNSでの誹謗中傷が少なかったことは幸いでしたね」

宮原「はい。最近の選挙ではSNSでの誤情報・偽情報が散見されていますね。有権者のみなさんには、そういう誰が書き込んだか分からない、真偽不明の情報に左右され

フィクション劇場 第二十六話「怪文書」

ないような投票を心がけて欲しいと思います。
私どもメディアも根拠のある正しい情報をお伝えして、みなさんに信頼される情報発信を行うことの必要性を肝に銘じつつ、その手助けになれば幸いです」

E
N
D

（2025年7月1日）